

【巻頭言】

地域研究の比較・連携・統合

Comparison, Cooperation and Integration in the Regional Study

地域総合研究所長 平野泰朗

地域総合研究所は、地域貢献型研究と社会連携を推進する機関として 2015 年に設立されました。しかし、地域との社会的連携は、すでに PBL 教育や様々なフィールドワークにおいて実施されています。また、地域研究も個々の教員により行われており、研究蓄積も進んでいます。ただ、大学全体からそれらを眺める場所が、ありませんでした。

そのような状況の中、学内で公募する摂南大学研究助成「Smart and Human 研究助成金」研究の中のいくつかは、共同で行う地域総合研究プロジェクトがありました。ここでは地域研究が共同で行われ、なおかつ研究助成という制度的枠組みにより、それらを大学全体で俯瞰できる機会が生まれました。地域総合研究所は、こうした事情を背景に生まれました。

したがって、この『地域総合研究所報』には、「Smart and Human 研究助成金」研究のうちの地域総合研究プロジェクトの報告書とそこから生まれた個別の論文あるいは地域研究に関連の深い個別の論文が収められています。今年度は 5 つの研究プロジェクトの報告書といくつかの個別論文が載っています。これらの研究成果は、学内の評価と外部委員の評価を受けます。こういった仕組みで研究の質を保ち、社会とのつながりを確認していきます。

こうして生み出される研究は、やがて新たな比較・連携・統合へと進むことが期待されます。例えば、比較とは同じ指標を用いた異なる地域間比較であったりするでしょう。比較する対象が外国の事例であってもいいでしょう。また、連携とは、例えば、地元食材の加工製造法の開発とその販路の検討といった、同じ地域における文理融合の分析であったりするかもしれません。あるいは、統合とは、特定地域に関する産業経済・教育・防犯・インフラ整備・健康福祉などにわたる地域創生の政策提案だったりするでしょう。今回の「Smart and Human 研究助成金」研究の 1 つ、「北河内総合研究のための枠組み作り」などにはその萌芽が認められます。

このように、今後、地域総合研究所を媒介にして様々な研究プロジェクトが生まれることを期待します。